

日本臨床検査医学会
池田 斉



婦人科でホルモンに異常がある時に受ける検査

「婦人科でホルモンに異常があります」と言われたら皆様ならどんな病気を考えたいと思うでしょうか。

一番身近な話題として『更年期障害』についてお話ししましょう。更年期障害は加齢に伴う生理的な変化で、女性なら誰も避けては通れないものです。次のような症状があったときには、早めに婦人科を受診して適切な治療を受けることをお勧めします。▼

更年期障害の症状と変化

更年期障害は、卵巣の機能が衰えて女性ホルモンが十分に不足することが原因と考えられています。そのため、種々の不快な症状が現れます。のぼせ、冷や汗、どうき、いらいらなどです。検査をすると、血液中のエストロゲン（特にエストラジオール（E₂）が低下しており、脳下垂体の性腺刺激ホルモン（卵胞刺激ホルモン（FSH））

が増加しています。治療としては女性ホルモン製剤を投与します。これによって、更年期障害の諸症状が軽減し、閉経期におこる骨粗鬆症の進行も抑えることができます。ただし、女性ホルモンには血栓形成の助長や乳癌発生増加といった副作用も報告されているため、その治療を受けるに当たっては専門医の正しい判断をおおぐ必要があります。

更年期障害

検査

血液
エストラジオール
(E₂)
卵胞刺激ホルモン
(FSH)



症状

- イライラ、うつ状態
- 頭痛
- どうき
- 食欲不振
- のぼせ
- 冷や汗



無月経の原因と検査

次に『無月経』についてお話ししましょう。妊娠したり授乳中には月経がなくなるのは生理的な現象ですが、さまざまな病気によって無月経になります。無月経には、十八歳になっても月経のこない原発性無月経と、一度は月経があったのが途中からなくなる続発性無月経の二種類がありま

す。原発性無月経の原因としては、卵巣機能不全や子宮發育不全、性器の異常などがあります。続発性無月経では、間脳—下垂体—卵巣系の機能不全が主な原因で、そのほかに卵巣や子宮の器質的疾患による場合があります。間脳—下垂体—卵巣系の機能異常を調べるには、LH—RH（あるいはG_nRH）刺激試験が行

われます。これによって間脳—下垂体—性腺系の異常の有無がチェックされます。さらに形態学的な検査として、超音波検査などの画像検査があります。

月経の異常など婦人科の病気が疑われた時には、早めに婦人科の専門医を受診するようにして下さい。